

2019 年度受賞者の活動報告

2019 年度に京都大学久能賞を頂き、生活面や研究活動において非常に大きな支えを頂きました。そのお支えのおかげで、研究活動に没頭することができ、自分を大きく成長させることができた1年となりました。サポート頂きました久能様に、誠に感謝申し上げます。修士課程での成果を、以下書面にて報告させていただきます。

まず、7月に行われた日本地球惑星科学連合大会において、自分の研究を初めて外部で発表し、他者にわかりやすく伝えることに挑戦しました。また、京都大学のリアルを紹介するホームページ、“ザッツ京大”にて、私の研究を取り上げて頂き、実社会ではなかなか触れない研究生活とのおもしろさを伝えることができました。他者に自分の活動を伝える、とても貴重な経験となりました。

そして、修士課程の研究では、指導の先生、そして研究室の先輩方や企業の方のお力を借りながら、実際に発生した斜面現象を理学的な観点から解明し、そのメカニズムに迫ることができました。四国西部に通い、現地では数多くの岩石試料を採取し、その性質を分析して岩石の風化過程と成立している風化帯構造を解明しました。また、観測機器を作成、設置し水文観測を行い、実際に斜面現象が起こる際の水文過程について言及しました。これらから得られた知見を統合的に解析・考察し、斜面崩壊の発生メカニズムに迫ることができました。この研究で、実社会での問題解決への糸口をひとつ提案できたと思います。

今年の4月からは、総合建設コンサルタント会社に就職し、実社会にて減災を目指す事業を行っていきます。減災に向けて、関連分野の知識と経験を幅広く深く持ち、統合的に的確な判断、技術提供が行える技術士になること、また、研究と研究を繋ぎ、それを実社会に活かすフレームワークとルートを切り開くことを目指し努力していきます。

昨年10月、久能賞に応募した時には、自分の掲げる目標と自分の実力とに大きな差があることを感じている最中でした。そんな時に、当賞が自分の壮大な夢と目標をすくい上げて評価下さいました。また、昨年の授与式の際に久能様が申し上げられた「結果を焦らず、努力することが大切」との言葉にも非常に救われました。できないことだらけだったけど、1歩1歩努力していこうという気持ちが沸き、続けることができました。今後、いっそう努力し自分の能力を向上させて、目標である「災害で人が死なない世界」を実現させたいと思います。私の修士課程において多大なるお支えを頂きまして、誠にありがとうございました。書面にて深謝申し上げます。

理学研究科 地球惑星科学専攻 菊池 美帆